



千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222)7207番

93.7.12 No. 3826

宣言闘争新たな勝利をめざし

7.4 全国総決起集会 開催



七月四日、三里塚芝山連合空港反対同盟は、千葉市中央公園において「成田空港拡張工事絶対阻止、農地強奪粉砕、隅谷提言粉砕、収用委員会再任命阻止、脱落派粉砕・一掃、全国総決起集会」を開催し、全国から四五〇〇名の闘う仲間が結集し、新たな決意のもと、反対同盟とともに闘いぬくことを誓い合った。

七・四全国集会は、極めて意義深い集会である。政府・運輸省・空港公団は隅谷東大名教授を先頭に反対同盟から脱落していった者をからめとり一五回に渡る「成田空港シンポジウム」を行なった。しかし、その最大の狙い目であった反対同盟を取り込み、「闘争をやめさせる」という攻撃は反対同盟の闘う決意によって完全に粉砕されてしまった。

脱落派は、「民主主義の新たな段階」と舞い上がっているがことの本质は全く変わっていないどころか、反対同盟に対する闘争破壊の攻撃はより激しくなってきたのだ。

シンポジウムの完全な失敗により、「新たな協議機関の設置」を余儀なくされた政府・公団・隅谷は、マスコミをフルに動員し、「成田問題は対決から話し合いに」との宣伝を行い、反対同盟の孤立化を狙っている。

そうした状況下において、反対同盟は、成田空港の完全廃港を待ちとるまで闘うことを明らかにした新たな闘争宣言を発したのである。

そうした反対同盟の決意を受け、全国から結集した仲間、決意も新たに反対同盟とともに闘うことを表明した。

反対同盟からの特別報告

敷地内を先頭に拡張工事を阻止する！

芝山町鈴木幸司さん

昨年小牧から自衛隊が派兵されて以来、怒りの闘いを続けてきた。本年五月十一、十二、一日には成田から自衛隊が派兵されている。われわれは、それを阻止する使命がある。

シンポの内容は、政府の言う話し合いとは、空港を完成させること以外のなにもでもない。脱落派の石毛は、「C滑走路は認めたらB滑走路を作ることはできない。」と部落で言い切っている。部落では、空港公団に騙されたという怒りに満ちている。また、新たな協議機関の設置は、シンポの名前が変わった

だけのもの。空港絶対反対で闘う。

萩原事務局次長

反対同盟は、この間のシンポの攻撃に対し、一二〇％勝利した。シンポは、完全空港化を狙ったものである。彼らが出した提言は、脱落派と談合したものであり、何ら展望がない。われわれの闘いを潰さない限り、空港は出来ない。われわれの闘いが空港を左右している。

三里塚闘争を反戦の砦として闘いぬく。日本の未来、人民の先頭に立つのは三里塚闘争とそれを闘う人々である。現地勢力の強化、日々闘う情報宣伝体制の強化をかちとり、完全空港化を狙う新協議機関の正体を暴き、闘いぬく。

成田シンポジウムは、一五回まで行なわれた。一〇年前反対同盟から脱落していった者が、シンポにのつたのだ。隅谷調査団は、何とか反対同盟をシンポに引きずり込もうとしてきたが、破産した。その間反対同盟は一五回の反対闘争を行なってきたのだ。成田シンポで結果的に何が変わったのかという何も変わっていない。隅谷提言では、事業計画を「白紙撤回」として

る。成田空港の軍事使用は断じて許されない。反対同盟は、PKO絶対反対を全国の人々に訴えてきた。

政府・空港公団は、成田治安法によって一万人の機動隊を投入し、現地闘争本部をはじめ破壊・撤去・封鎖を繰り返してきた。反対同盟を叩くだけ叩いてきた。政府の攻撃は一片の正義性もない。

新協議機関はシンポジウムの延長 完全廃港を目指し闘いぬく！

三里塚芝山連合空港反対同盟・北原事務局次長

が、全くのベテランだ。「白紙撤回」とする

この事業計画は空港問題が持ち上がった二七年前の事業計画であり、今の現状には合わないものとなつていく。空港公団は、二七年前の事業計画を「白紙」に戻し、新たな事業計画の下で成田空港の拡張を行なおうとしているのだ。われわれにとって白紙撤回とは、空港を二七年前の山野に戻すことである。

いま成田は、PKO派兵に使用され、カンボジア・モザンビークへと自衛隊が派兵されている。

このまやかさを許してはならない。今後とも闘いぬく。海外派兵された自衛隊を引き戻すのか。また、自民党が分裂し、連立政権が問題となっている。連立政権がどこへ行くかとしているのか。状況は全く変わらない。自衛隊の海外派兵許さず、日本の未来を変えていくのはここに集まった人々だ。反対同盟は、その闘いの先頭に立つと同時に、成田空港の完全廃港を目指し新たな闘争宣言を行なう。